

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第9号
令和4年6月
和歌山県
長寿社会課

支え合い事例紹介 岩出市 「協議体活動による地域のつながり作り」

岩出市では生活支援コーディネーターの吉田さんと中野さんが中心となり、協議体の構成員とともに、地域の交流の場を作り、つながりを広げる取組をされています。吉田さんによると、岩出市は他市町村と比べて地縁の関係が薄く、地域の交流の場を作り、つながりを広げていくことが重要となっているとのことです。そこで、協議体では地域の交流について話し合い、協議体構成員がそれぞれの地域で活動を行っています。今回、岩出市の協議体会議に参加させていただき、実際の交流の場を取材させていただきました。



生活支援コーディネーター(SC)
吉田さん(左) 中野さん(右)

ざっくばらんに話し合う第2層協議体会議

岩出市には、岩出地区、山崎地区、根来地区、上岩出地区の4つの第2層協議体があり、協議体毎に決められた間隔で定期的に会議が行われています。全ての地区の会議に参加させていただいたところ、どの協議体の会議も自然に話し合える楽しい雰囲気が進められていました！



協議体会議の様子

協議体メンバーが主体となっている地域交流の場がたくさん！

第2層協議体の構成員は、民生委員児童委員、高齢者支援に関わる地域の法人、市社会福祉協議会、各地区地域福祉協議会、老人クラブ、学校運営協議会、市地域包括支援センターなどで構成されています。コロナ禍ではあるものの、それぞれが「今、無理なくできること」について考え、地域の中でつながりづくりを実践されています。

詳しくは次ページ

ココがすごい！

SCと協議体で作成！「いわで交流マップ」

協議体の取組として作成したのが「いわで交流マップ」。高齢者の方々に地域にある「交流の場」を知ってもらおうと、協議体の構成員で何度も話し合いながら完成させたもの。協議体構成員それぞれの基盤でマップの配布や声掛けをするなど、地域へ発信しているとのこと。協議体構成員の方の中には「いつもカバンに入れていて活動ツールのひとつとなっている」とおっしゃる方もいます。

65歳以上の岩出市転入者に配布

岩出市は転入者が多く、転入者から地域の交流の場を知りたいという問合せがあったそうです。そのため、今では高齢の転入者が住民票手続きのために市役所を訪れた際、このマップを配布するよう工夫されています。



いわで交流マップ (表紙)



いわで交流マップ (紙面)



県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521



岩出市の地域交流の場！

今回訪問させていただいたのは、根来地区と山崎地区の交流の場です。それぞれ工夫を凝らした活動をされていて、みなさんととても楽しそうに取り組まされていました！

屋外での交流の場「ふらり一步」

根来地区協議体の構成員である並松さんが中心となり、屋外で実施しているのが「ふらり一步」です。実際に公園での集まりに参加させていただき、お話を伺いました。

活動の内容は、ラジオ体操と、コロナ禍でも取り組めるようにと考案（地域包括支援センター作成）された「あおぞら運動」を約30分。並松さんと吉田さんの声かけを中心に実施されていました。

並松さんは、「ここで体操を覚えていただき、参加者が自分達の近所に持ち帰ってもらいたい」と話されていました。地域に枝葉のように広がることを目的としているとのこと。また、「協議体の活動は、生活支援コーディネーターと一緒にスタートして積み重ねてできたもの。メンバーが宝だと思っている。地域と行政、みんなが協力して取り組んでいることが良いところ。」とおっしゃっていました！

みなさんの想い

みなさんにやりがいをお聞きしたところ「皆と会って体操して、話すのが楽しいから続けられる」「足から老化が始まると思っているが、体操をすることで足腰が強くなり転倒しなくなった。」等の明るいお声を聞きました。また一緒にお話をお伺いした中谷さんは、並松さん同様に根来地区協議体の構成員であり、様々な交流の場を地域で展開されている中で「コロナ禍により従来の活動ができなくなった」「屋内から屋外へ、イベント型から自由参加型へ等、新しい形が求められている」と話されていました。



右から順に、並松さん、中谷さん、吉田さん、宮本さん、中野さん(SC)、広瀬さん、吉田さん(SC)、岡野さん(市)



体操の様子

山崎地区で様々な交流の場作りに取り組んでいるのが、山崎地区協議体構成員の市野さんです。市野さんは個人や団体で活動しているボランティアをつなげる「いわで地域ボランティアネットワーク」の代表を務めており、会員同士協力しながら様々な活動をされています。今回はその中からいくつかを取材させていただきました。

居場所サロン「ふれあい処ふらり」

市野さんはご自宅の一室を「ふれあい処ふらり赤垣内」として開放し、地域の高齢者の方々の様々な相談にのっています。世間話から市役所に提出する書類の書き方相談など、集まる方は様々とのこと。やりがいを伺うと「地域の皆で集まってワイワイガヤガヤするのが好きだけ」とおっしゃっていましたが、それがとても大切なことだと感じました。



市野さん

子どもも大人も集う「ふらり図書館」

もともと本好きで多くの本を持っていた市野さんが、皆に読んでもらえればと始めたのが「ふらり図書館」です。始めは自宅のガレージで青空図書館として実施していたそうですが、今は空き倉庫を活用されています。散歩の途中に休憩場所として利用される方や、帰宅途中に読書や宿題をしにくる子もいるとのこと。

本は市野さんの蔵書に加え、市内外から寄付されたもの。貸し出しもしており、お孫さんのために本を借りていく方もいるそうです。



ふらり図書館の様子

休憩スポット作り

また、長距離を歩くのが大変な高齢者の方々が散歩や買い物を諦めることがないように、街中に休憩スポットを作る取組も行っています。看板（写真）を配布し、自宅のガレージや石垣等に設置してもらうことで、街中に休憩スポットを増やす活動です。実際、小学生や高齢者の方が座っておしゃべりしているそうです！



休憩スポット作りの様子